

子どもどうしのトラブル対応編

～ 「対応の原則と手順」 ～



R7.11.18

障がい児成長支援協会セミナー

右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



合同会社サンクスシェア
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



今日の内容

① 子どもどうしのトラブルとは

トラブルの状態 要因 人間関係の発達

② 子どもどうしのトラブルのパターンと対応

7つのパターン（背景 対応 予防 支援チェック）

③ トラブル対応の原則

基本的手順 問題解決力 支援のポイント①②③

子どもどうしのトラブルとは？



心の発達の視点

子どもどうしのトラブルとは

トラブル＝いざこざ もめごと
悶着 故障 不調

① 感情が強くゆれて、行動が乱れやすい状態

② 自分を守ろうとする反応が強く出ている状態

④ 気持ち・考え・欲求がぶつかっている状態



③ 相手の気持ちが見えなくなる状態

⑤ コミュニケーションがうまくいっていない状態

子どもどうしのトラブルの主要因

① 感情の高ぶり

疲れ、ストレス、不安、緊張などがたまると、普段なら冷静に対応できることでも、衝動的な言動が出やすくなる。

② コミュニケーション手段の不足

気持ちをうまく言葉にできない、お願いや断り方がうまく伝えられないなど、“伝える力”が不足すると、行動で表現してしまい、けんかになることがある。

③ 自分を守ろうとする本能

人間には「危険から自分を守る」仕組みが備わっている。批判されたり否定されたりすると、脳は“攻撃された”と感じ、反応として反発することがある。

④ 誤解や情報不足

「相手がこう思っているだろう」と思い込むことで、意図が正しく伝わらずトラブルになる。説明不足や伝え方の違いで不安や怒りが大きくなることもある。

⑤ 欲求(ニーズ)のぶつかり

人はみんな「大事にしたいこと」が違う。休みたい人と、話したい人、静かにしたい人と、音を出したい人など、お互いのニーズが不一致になると衝突が起こりやすい。

⑥ 価値観の違い

「当たり前」の基準が違っていると、相手の行動が理解しにくく、対立につながる。（例）時間の感覚、片づけの基準、言葉の強さ、距離感。

発達と人間関係

【道徳の内容配列】

小学校				中学校
小学校 1・2 年	小学校 3・4 年	小学校 5・6 年		
1 主として自分自身に関すること				
(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣	(1) 基本的な生活習慣・節度節制	(1) 基本的な生活習慣・調和のある生活	
(2) 勤勉努力	(2) 勤勉・粘り強さ	(2) 希望・勇気・努力	(2) 希望・勇気・強い意志	
(3) 善悪の判断・勇気	(3) 善悪の判断・勇気	(3) 自由・自律・責任	(3) 自主自律・誠実・責任	
(4) 正直・明朗	(4) 正直・明朗	(4) 誠実・明朗	(4) 真理愛・理想の実現	
	(5) 個性の伸長	(5) 真理愛・創意工夫	(5) 向上心・個性の伸長	
		(6) 個性の伸長		
2 主として他の人とのかかわりに関すること				
(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀	(1) 礼儀	
(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 思いやり・親切	(2) 人間愛・思いやり	
(3) 友情	(3) 信頼友情	(3) 信頼友情・男女協力	(3) 信頼友情	
		(4) 寛容・謙虚	(4) 異性の理解	
(4) 感謝	(4) 尊敬・感謝	(5) 尊敬・感謝	(5) 寛容・謙虚	
			(6) 尊敬・感謝	
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること				
(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	(1) 生命尊重	
(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・動植物愛護	(2) 自然愛・畏敬の念	(2) 自然愛・畏敬の念	
(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 畏敬の念	(3) 弱さの克服・生きる喜び	
4 主として集団や社会とかかわりに関すること				
(1) 規則尊重・公徳心	(1) 規則尊重・公徳心	(1) 公徳心・規則尊重・権利義務	(1) 法の遵守・権利義務	
		(2) 公正公平・正義	(2) 公徳心・社会連帯	
		(3) 役割と責任の自覚	(3) 正義・公正公平	
(2) 勤労	(2) 勤労	(4) 勤労・奉仕	(4) 役割と責任の自覚	
(3) 家族愛	(3) 家族愛	(5) 家族愛	(5) 勤労・奉仕・公共の福祉	
(4) 愛校心	(4) 愛校心	(6) 愛校心	(6) 家族愛	
(5) 郷土愛	(5) 郷土愛	(7) 郷土愛・愛国心	(7) 愛校心	
	(6) 愛国心・国際理解	(8) 国際理解・親善	(8) 郷土愛	
			(9) 愛国心	
			(10) 国際理解・人類愛	

寛容・謙虚

【道徳のねらい】

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
----	----	----	----	----	----

年齢	心の発達の主な特徴	感情・対人関係	コミュニケーション・ことば	心の理解
0歳 (0～12か月)	人への興味が育つ	・笑顔に反応 (社会的微笑) ・抱っこで安心	・泣きで気持ちを伝える ・喃語が始まる	・自分と他者の区別が芽生える
1歳 (12～24か月)	自分の気持ちが芽生える	・イヤイヤ期の始まり ・人見知り	・単語が出る (ワンワン等)	・自分の欲求を優先
2歳	自我が強くなる	・“じぶんの！”が増える	・二語文 (ママきて)	・相手の気持ちはまだ理解困難

感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
----	----	----	----	----	----

年齢	心の発達の主な特徴	感情・対人関係	コミュニケーション・ことば	心の理解
3歳	気持ちの種類が増える	・ 友だちと少しずつ遊べる	・ 会話が増える	・ 相手にも気持ちがあると気づく
4歳	社会性が伸びる	・ けんかが増える(学習期) ・ 順番・交代の理解	・ 感情の言語化が進む	・ 相手の視点を少し理解
5歳	相手理解が伸びる	・ ごっこ遊びで役割理解 ・ 協力できる	・ 複雑な文で話す ・ 理由説明が可能	・ 心の理論が発達

発達と人間関係

	感情	手段	防衛	誤解	欲求	価値
年齢	心の発達の主な特徴	感情・対人関係		思考・学習		自己理解・心の理論
6～7歳 (小1～小2)	“学齢期の心”が育ち始める	・ルール意識が育つ ・友だちトラブルが増える ・大人の承認を求める		・具体的に考えるのが得意 ・学習の基礎が整う		・自他の気持ちを区別 ・相手の視点を理解し始める
8～9歳 (小3～小4)	自立心が伸びる時期	・仲間意識が強くなる ・グループ内の位置を気にする ・正義感が強まる		・論理的思考が発展 ・計画性が芽生える		・相手の感情理解が深まる ・劣等感や恥ずかしさが増える
10～11歳 (小5～小6前半)	抽象的な考えが育ち始める	・友人関係が固定化 ・深い悩みが増える ・協調と主張のバランスを学ぶ		・抽象概念の理解が進む ・原因と結果を考える力が育つ		・自己評価が現実的に ・他者の意図を推測できる
11～12歳 (小6後半)	思春期の入り口	・自尊感情が揺れやすい ・友だちの影響が強くなる ・自分らしさを意識		・仮説的思考の萌芽 ・自己管理能力が伸びる		・複雑な気持ちを分析 ・第三者視点の発達

心の理論とは

心の理論ってなに？

(Theory of Mind)

「相手の気持ちや考えていることを“想像して”理解する力」

「“自分と相手はちがう気持ち・ちがう考えをもっているんだ”と気づける力」

① 相手がどう思っているか考えられる
「この人は悲しんでいるかも…」
「こう言ったらイヤな気持ちになるかな…」
など、相手の心を想像できる

② 相手が見えていないものを理解できる
自分は知っていても、相手は知らないことがあると理解できる

③ 相手の立場に立って考えられる
「もし自分が相手だったら、どう感じるかな？」という想像ができる

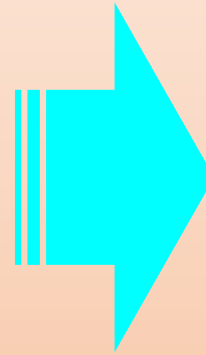


サリーとアンの課題

心の理論とは

【ジョハリの窓】

	自分は知っている	自分は気付いていない
他人は知っている	「開放の窓」 自分も他人も知っている自己	「盲点の窓」 自分は気が付いていないが、 他人は知っている自己
他人は気付いていない	「秘密の窓」 自分は知っているが、 他人は気付いていない自己	「未知の窓」 誰からも知られていない自己



	自分は知っている	自×
他人は知っている	「開放の窓」	盲点の窓
他×	秘密の窓	未知

自己開示

子どもどうしのトラブルのパターンと対応



絶好の療育の機会

子どものトラブル7つのパターン

- ① 感情の爆発
- ② 不注意・突発的トラブル
- ③ 欲求のぶつかり
- ④ 誤解や伝わらない
- ⑤ ルール・こだわり
- ⑥ コミュニケーションの行き違い
- ⑦ 人間関係・力関係



① 感情が爆発する（怒り／不安／疲れ）

◆ 典型例

- ・ 急にたたく・押す・叫ぶ
- ・ 思い通りにならずパニック
- ・ 相手に強い言葉を投げてしまう

◆ 背景

- ・ ストレスや疲れがたまっている
- ・ 感情のコントロールが苦手
- ・ 自分の気持ちを整理するスキルが未発達

◆ その場の対応

- ・ まず安全確保（距離を取る・物を取りのぞく）
- ・ 「気持ち」を代わりに言語化
→「今、すごくイヤだったんだね」
- ・ 怒っている子には理屈より“落ち着く時間”を先に与える
- ・ 呼吸・クールダウン方法を一緒に行う

◆ 予防・育てたい力

- ・ 感情コントロールのスキル
- ・ 「困ったときに助けを呼ぶ」練習
- ・ 疲れやすい時間・環境を把握して配置を工夫

① 感情が爆発する（怒り／不安／疲れ）

◆ 典型例

- 急にたたく・押す・叫ぶ
- 思い通りにならずパニック
- 相手に強い言葉を投げてしまう

◆ 背景

- ストレスや疲れがたまっている
- 感情のコントロールが苦手
- 自分の気持ちを整理するスキルが未発達

◆ 状況理解チェック

- ☐ 子どもが疲れ・不安・ストレスがたまっているサインに気づけている
- ☐ トラブルというより“感情の暴発”と理解できている

◆ 支援チェック

- ☐ まず安全確保をしている
- ☐ 落ち着くスペースや方法を、日頃から共有している
- ☐ 感情の言語化を代わりに行っている
- ☐ 落ち着いた後に、行動の振り返りを一緒にしている

② 不注意・突発的トラブル

◆ 典型例

- 走ってぶつかる
- おもちゃがあたってしまう
- 予期せぬ行動で相手を驚かせる

◆ 背景

- 注意力の未成熟
- 衝動性
- 身体の動かし方のコントロールが苦手

◆ その場の対応

- 故意でないことを双方に明確に伝える
→「ぶつかったのはわざとじゃないよ」
- ケガがあれば優先
- 「どうすれば安全？」と一緒に考える（責めない）

◆ 予防・育てたい力

- 見通しを持たせる（動きの多い場では注意喚起）
- 衝動性が強い子には動き方のガイド
- 危険な場所・時間帯の環境調整

② 不注意・突発的トラブル

◆ 典型例

- 走ってぶつかる
- おもちゃがあたってしまう
- 予期せぬ行動で相手を驚かせる

◆ 背景

- 注意力の未成熟
- 衝動性
- 身体の動かし方のコントロールが苦手

◆ 状況理解チェック

- ☐ 故意かどうか、行動の背景を見て判断している
- ☐ 衝動性・注意力の特性を把握している

◆ 支援チェック

- ☐ 「わざとではない」と相手にも説明して誤解を防いでいる
- ☐ 危険が起きないように、環境調整をしている
- ☐ 走る場所・遊び方のルールを事前に視覚化している
- ☐ 身体のコントロールが苦手な子へのガイドができている

③ 欲求（ほしいもの）がぶつかる

◆ 典型例

- おもちゃの取り合い
- 人気の席の争奪
- 順番・番（バン）をめぐるトラブル
- 遊びたいゲームが同じ／ちがう

◆ 背景

- 自分のしたいことが最優先になりやすい
- 相手への配慮が難しい
- 「ゆずる・まつ」スキルがまだ未発達

◆ その場の対応

- どちらの味方でもなく「困っていること」に焦点を当てる
→「ふたりとも、このおもちゃで遊びたいんだね」
- まず落ち着かせ、手を止めさせる
- 順番・時間を見える形にする（タイマー・名前カード）

◆ 予防・育てたい力

- 「まつ」「ゆずる」経験を積ませる
- 選択肢を提示する：「終わったら交代でもいい？」「別の遊びもあるよ」

③ 欲求（ほしいもの）がぶつかる

◆ 典型例

- おもちゃの取り合い
- 人気の席の争奪
- 順番・番（バン）をめぐるトラブル
- 遊びたいゲームが同じ／ちがう

◆ 背景

- 自分のしたいことが最優先になりやすい
- 相手への配慮が難しい
- 「ゆずる・まつ」スキルがまだ未発達

◆ 状況理解チェック

- ☐ トラブルの原因が「取り合い・順番・ほしいもの」だと把握できている
- ☐ どちらも責めず、双方の気持ちを受け止めている
- ☐ “待つ・交代する”仕組みを用意している（タイマー・カード）

◆ 支援チェック

- ☐ 選択肢を提示できている
- ☐ 遊びの代替案を用意できている
- ☐ 両者に「次どうする？」と主体的に決めさせている

④ 誤解・伝わらない

◆ 典型例

- からかったつもりが本気で怒らせた
- 声の大きさや表情の受け取りちがい
- 言葉が足りず「いきなり怒ったように見える」
- 相手の本気・冗談の区別がつかない

◆ 背景

- コミュニケーションのずれ
- 心の理論の育ちの途中
- わかりやすい言葉で伝える力が弱い

◆ その場の対応

- 相手の意図を通訳する
→「〇〇くんは、ふざけていたみたいだよ」
→「言いたかったのはこういうことかな？」
- 「事実」と「気持ち」を分けて整理してあげる
- 一方の思い込みを修正する

◆ 予防・育てたい力

- 自分の気持ちを言葉にする練習
- 感情の語彙をふやす（悲しい・びっくり・イヤなど）
- 「冗談／本気」の違いを具体例で教える

④ 誤解・伝わらない

◆ 典型例

- からかったつもりが本気で怒らせた
- 声の大きさや表情の受け取りちがい
- 言葉が足りず「いきなり怒ったように見える」
- 相手の本気・冗談の区別がつかない

◆ 背景

- コミュニケーションのずれ
- 心の理論の育ちの途中
- わかりやすい言葉で伝える力が弱い

◆ 状況理解チェック

- ☐ どちらかが“誤解している”可能性を意識できている
- ☐ 本気・冗談・ふざけの区別が難しい子がいると把握している

◆ 支援チェック

- ☐ 子どもの言葉を“通訳”している
- ☐ 「事実」と「気持ち」を整理して伝えている
- ☐ 状況をイラスト・簡単な言葉で説明している

⑤ ルールの理解ちがい・こだわり

◆ 典型例

- ・ 「ルールはこうだ！」と一方が強く思う
- ・ 自分ルールがあり、合わない相手と衝突
- ・ ゲーム中の判断をめぐってけんか

◆ 背景

- ・ 柔軟な考え方がまだ難しい
- ・ ルールの「例外」が理解しにくい
- ・ ASD傾向の子どもで起こりやすい

◆ その場の対応

- ・ まず“その子のルール”を否定しない→「〇〇くんの中ではこういうルールだったんだね」
- ・ その上で **共有ルール** に少しずつ引き戻す→「みんなで遊ぶときはこのルールにしようね」
- ・ 白黒ではなく「例外」「別解」があることをゆっくり説明

◆ 予防・育てたい力

- ・ ルールを「見える化」する
(図・カード)
- ・ グレーゾーン例と一緒に考える
- ・ ASD傾向の子には先に“変更の予告”を伝える

⑤ ルールの理解ちがい・こだわり

◆ 典型例

- ・ 「ルールはこうだ！」と一方が強く思う
- ・ 自分ルールがあり、合わない相手と衝突
- ・ ゲーム中の判断をめぐってけんか

◆ 背景

- ・ 柔軟な考え方がまだ難しい
- ・ ルールの「例外」が理解しにくい
- ・ ASD傾向の子どもで起こりやすい

◆ 状況理解チェック

- ☐ その子が“自分ルール”を持ちやすいと把握している
- ☐ ASD傾向によるこだわりの強さを理解している

◆ 支援チェック

- ☐ まず否定せず、「あなたのルールではこうだね」と共感している
- ☐ “みんなルール”を視覚化して伝えている
- ☐ 例外や柔軟な考え方を少しずつ説明している
- ☐ 変更がある時は事前に予告している

⑥ コミュニケーションの特性による 行きちがい

(特に発達特性のある子ども)

◆ 典型例

- 一方的に話す／話を奪う
- 冗談やあいまいな表現が理解しにくい
- 自分のペースを崩されると混乱

◆ 背景

- ASD・ADHDなどの特性
- 社会的なやりとりが難しい
- 認知の仕方が独特で誤解が生まれやすい

◆ その場の対応

- 誤解が生まれやすいポイントを“翻訳”してあげる
- 「悪気はなかった」ことを相手に伝える
- 本人には、具体的にどう伝えるとよいかを教える→「順番を変えて言う」と伝わりやすいよ」

◆ 予防・育てたい力

- ソーシャルスキルトレーニング (SST)
- 視覚的な支援 (カード・イラスト)
- 「やりとりの型」を練習 (お願い・断る・相談など)
- 相手の表情を見る練習 (段階的)

⑥ コミュニケーションの特性による 行きちがい

(特に発達特性のある子ども)

◆ 典型例

- 一方的に話す／話を奪う
- 冗談やあいまいな表現が理解しにくい
- 自分のペースを崩されると混乱

◆ 背景

- ASD・ADHDなどの特性
- 社会的なやりとりが難しい
- 認知の仕方が独特で誤解が生まれやすい

◆ 状況理解チェック

- ☐ ASD・ADHDなどの特性が影響している可能性を理解している
- ☐ 「悪気がないのに誤解される」状況を想定できている

◆ 支援チェック

- ☐ 言い方・伝え方の“型”を教えている（お願い・断る・相談）
- ☐ 表情の読み取りを練習できている
- ☐ “翻訳”支援（背景・意図の説明）を行っている
- ☐ SST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れている

⑦ 人間関係・力関係（仲間・なかま外し）

◆ 典型例

- ・ 「いれて」「だめ」問題
- ・ 仲良しグループ内のもめごと
- ・ 誰と遊ぶかをめぐる争い
- ・ からかい・軽いいじめの芽

◆ 背景

- ・ “仲間意識”が強まる時期
- ・ 自分の立場を守りたい気持ち
- ・ 社会的スキルの未発達

◆ その場の対応

- ・ 「だれが悪い」ではなく“気持ちのぶつかり”として扱う
- ・ 参加を希望する子の気持ちと、グループ側の気持ちの双方を整理
- ・ グループに“役割”を提案すると入りやすい→「ここに〇〇のお手伝い役をお願いできる？」

◆ 予防・育てたい力

- ・ 「入れて」「いいよ」「ちょっと待ってね」などの対人スキルを練習
- ・ 小さな成功体験を作る
- ・ グループ遊びのルールと配慮を事前に教えておく

⑦ 人間関係・力関係（仲間・なかま外し）

◆ 典型例

- ・ 「いれて」「だめ」問題
- ・ 仲良しグループ内のもめごと
- ・ 誰と遊ぶかをめぐる争い
- ・ からかい・軽いいじめの芽

◆ 背景

- ・ “仲間意識”が強まる時期
- ・ 自分の立場を守りたい気持ち
- ・ 社会的スキルの未発達

◆ 状況理解チェック

- ☐ 遊びグループ内の力関係を把握している
- ☐ “仲間意識の強さ”から出る行動であると理解している

◆ 支援チェック

- ☐ 双方の気持ちを整理して伝えている
- ☐ 参加したい子に役割をつくっている（お手伝い・見守りなど）
- ☐ 「入れて」「ちょっとまってね」などの対人スキルを教えている
- ☐ 仲間外しにつながる芽を早期に拾えている

トラブル対応の原則



問題解決力

子どものトラブル7つのパターン

- ① 感情の爆発
- ② 不注意・突発的トラブル
- ③ 欲求のぶつかり
- ④ 誤解や伝わらない
- ⑤ ルール・こだわり
- ⑥ コミュニケーションの行き違い
- ⑦ 人間関係・力関係



対応の原則

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める

- ・ 原因や要因の削除
- ・ クールダウンスペースの確保

【理由・要因が
明白な場合】

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- ・ 謝罪や仲直り、問題である理由の説明など
- ・ 今後の約束を決めさせる（決める）



③ 約束に沿った対応をする

- ・ 決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ）

① 起きた問題行動を分析する

- ・ 【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す

② 行動問題がおこらない環境設定をする

- ・ 事前の約束を徹底する

【理由・要因が
不明確な場合】

① 起きてしまった行動問題をできる限り早く収める (理由・要因が明白)

- | | | |
|---|--------------|---|
| ア | <u>安全の確保</u> | ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう
安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など） |
| イ | <u>刺激の除去</u> | ・ いやになっている刺激を取り去る
（視覚 聴覚 触覚 におい など） |
| ウ | <u>刺激の制御</u> | ・ 現状以上の刺激を与えない
（クールダウンスペース クールダウン部屋） |
| エ | <u>受け入れ</u> | ・ まずは気持ちのすべてを受け止める |
| オ | <u>切り替え</u> | ・ 本人が興味ある話題や物を使って
気持ちを切り替える |
| カ | <u>見守る</u> | ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ |

② 落ち着いたらトラブル処理をする

(理由・要因が明白)

- ア 聞き取り
 - ・ 状況や原因等について話を聴く
- イ 不適切行動の確認
 - ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
 - ・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する
- ウ 対処方法の確認
 - ・ どうすればよかったのか？を共通確認する
- エ 行動の修正
 - ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む）
 - ・ 謝罪や仲直り等の介入
- オ 今後の方針確認
 - ・ 今後のふるまい方の約束をする
 - ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

③ 約束に沿った対応をする

(理由・要因が明白)

才 今後の方針確認

- ・ 今後のふるまい方の約束をする
- ・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する

- ・ 目標や取り組みの内容と方法を『約束』にする。(＝ルール化)

約束時 ① ルール化は、可能な限り『子ども自らが決める方向で』

その後 ② 取り組みの成果には、必ず評価(＝賞賛・報酬)を！

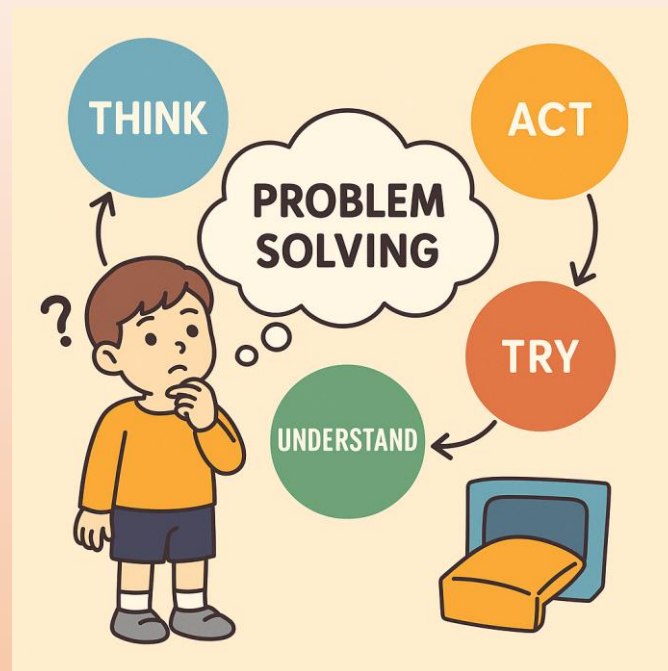
守られなくても決してあきらめない(むしろ通常)

問題解決力とは？

① 状況を正しくとらえる力
(状況把握力)

② 感情を整える力
(感情調整)

③ 考え方を柔軟にする力
(柔軟性・可塑性)



④ 解決方法を思いつく力
(発想力・選択肢づくり)

⑤ 行動に移す力
(実行力)

⑥ うまくいかなかった時の立て直し
(再調整・モニタリング)

トラブルの場面は、問題解決力を身につける機会

支援のポイント① 「人権」

- 『子どもの自由』が保障されていること
※大人も同じ

子どもの権利（child rights）とは、
子どもの人権（human rights of
children）と同じ意味です。

子どもは**生まれながらに**人権（権
利）をもっていて、それは、**義務
と引き換えに**与えられるものでは
なく、また、何かをしないと取り
上げられるものでもありません。

unicef | 子どもの権利条約



差別の禁止（差別のないこと）

すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。



子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）

子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。



生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。



子どもの意見の尊重（子どもが意味のある参加ができること）

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

支援のポイント① 「人権」

- 『自己決定』が保障されていること

ステップ1 意思形成

『これおもしろそう
だな。やってみたい
なあ』

ステップ2 意思表示

「これ、おもしろそ
うだからやってみた
いです。」

ステップ3 意思決定

「これ、やりたいの
で、やります。」

ステップ4 意思実現

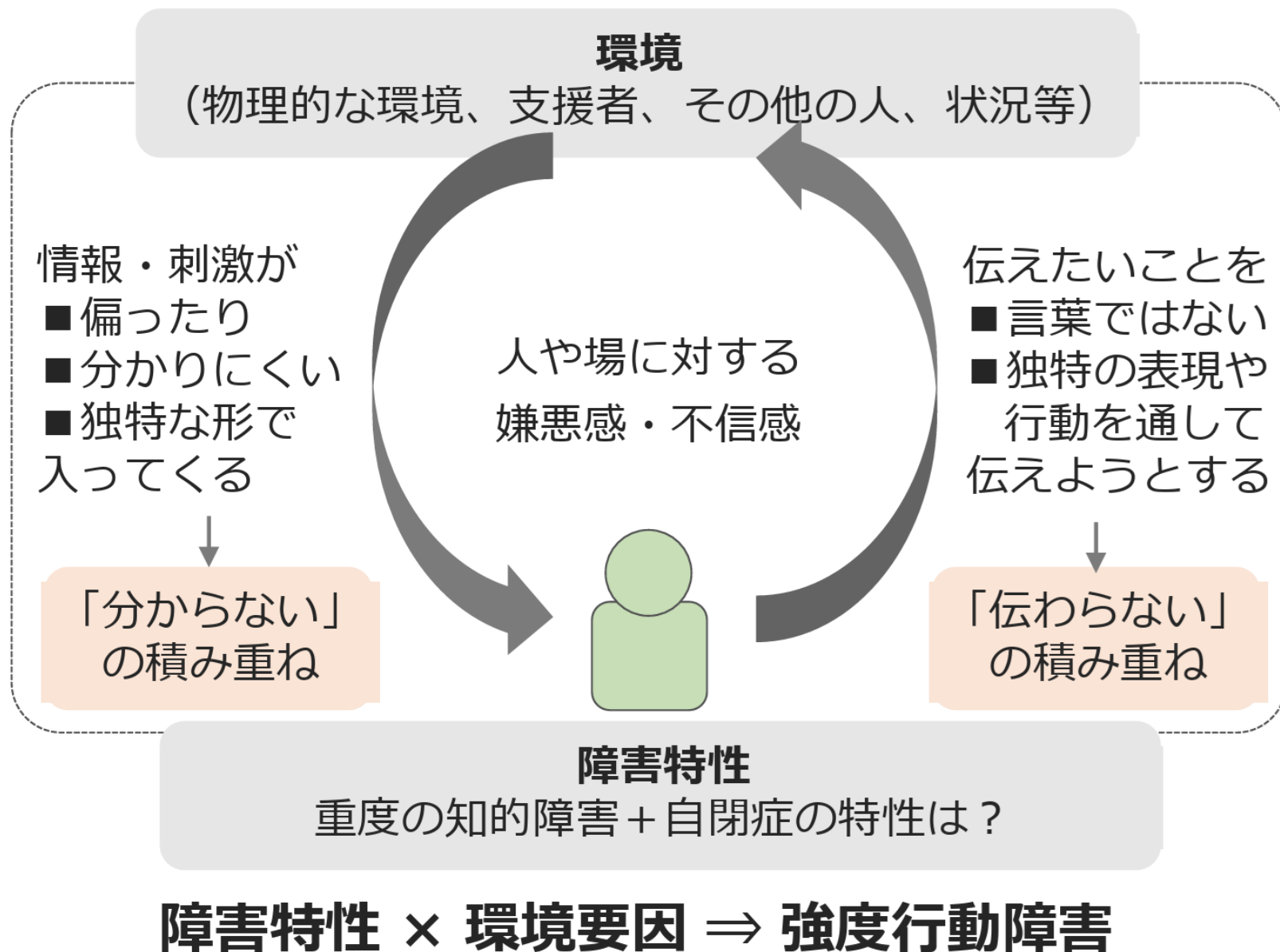
【やりたいことへの
参加行動】

自己選択 自己決定の場が保障されている
内容 方法 量（量・時間）

意思決定支援の基本原則

- ① 自己決定の尊重とわかりやすい情
報提供 … 必要な情報の説明は本人が
理解できるように工夫する
- ② 不合理と思われても他者の権利を
侵害しないのであれば尊重する … 家
族や支援者が不合理と判断しても、他
者の権利を侵害しなければ尊重する

支援のポイント① 「人権」



強度行動障がい
リーフレット
(厚生労働省)

支援のポイント② 「脳機能の発達」

快 ・ 不快

(やってみたいのもと)
子ども脳

情動をつかさどる偏桃体（大脳辺縁系）

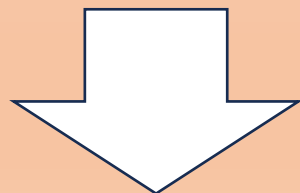
- ・ 幼児期に急激に発達
- ・ 10歳～ さらに発達
(思春期のホルモン影響)

価値観

(ねばならない)
おとな脳

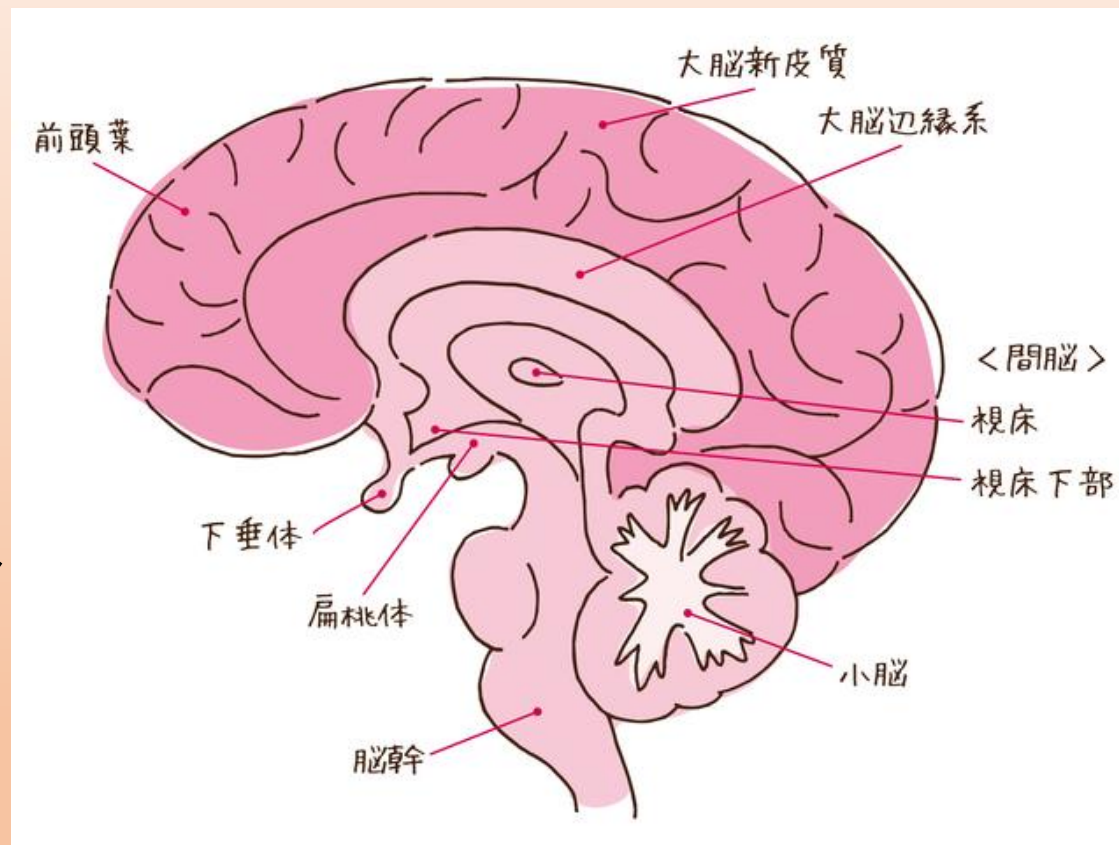
価値観をつかさどる前頭前野

- ・ 20歳から30歳に完成
※感情の抑制、コントロールは
20歳を過ぎても発達



教育と遊育
AKU

価値観の行き過ぎた優先は、
大脳辺縁系のゆがんだ発達を招く



支援のポイント② 「脳機能の発達」

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

◆

要求・要望・目的がある

⇒

行動（含不適切）

OK！

◆

無意識レベル

⇒

行動

対応困難！

支援のポイント③

「特性への合理的配慮」



配慮がない状態



平等な支援
(Equality)



公平な支援
(Equity)

支援のポイント③

「特性への合理的配慮」



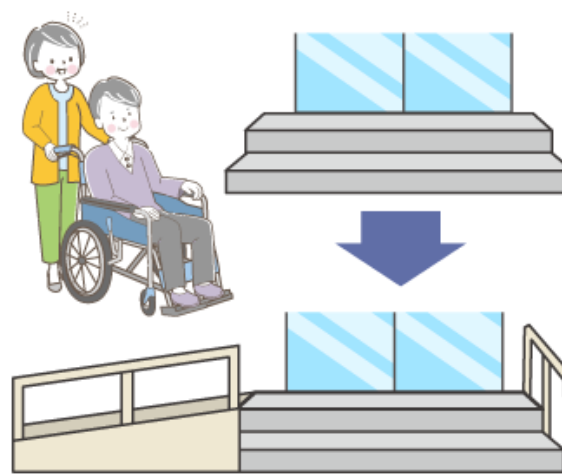
ユニバーサルデザイン
(Justice)

バリアフリーとユニバーサルデザインの違い

バリアフリー

高齢者・障害者・妊婦等
社会生活に補助が
必要とされる人

＼改善してバリアを無くす／



ユニバーサルデザイン

年齢・身体状況・体格
性別・国籍・個性や
違いに関わらず全ての人

＼最初からバリアを
作らない／



支援のポイント③ 「特性への合理的配慮」

肯定的な「話し方」のスキル

(楽々かあさんHP)

	障害特性	リフレーミング（強みの表現に変換）
1	ことばを聞いて理解することが苦手	目で見た情報は理解しやすい
2	表情や身振りを、誤って理解してしまう	明瞭に（はっきりと）区別された指示を好む
3	人や場面によって態度を変えられない	ルールをきっちり守ろうとする。物怖じしない
4	他の人の興味あることに関心が薄い	状況に左右されず、自分の好きなことに取り組むことができる
5	全体をとらえて関係性をつかむことが苦手	細部に、強く意識を向けることができる
6	別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手	状況に左右されず、ねばり強く取り組むことができる
7	集団で一斉に行動することが苦手	マイペースに課題を完了することができる
8	「いつ終わる」かを理解するのが苦手	決められたことをやり続けようとする
9	抽象的、あいまいなことの理解が苦手	具体的で、はっきりしたことを好む
10	経験していないことを想像することが苦手	経験したことは、しっかりと覚える
11	特定の物事に強く固執	興味があること（趣味・仕事）に、積極的に取り組める
12	規則することが苦手	繰り返し体験することで記憶する
13	発達（認知能力）がアンバランス	興味・関心。好きなことは抜群にできる
14	特定の行動を何度も繰り返してしまう	決まったパターンを几帳面に行うことができる
15	期待されていることに注意が向かない	興味・関心があるものに、強く注意・集中を向けることができる
16	特定の感覚が過敏、または鈍い	些細な違いや変化に気が付くことができる、または非常に我慢強い